

令和元年度決算を認定

9月定例会では、令和元年度決算の認定議案3件が提出され、1件を全会一致で、2件を賛成多数で原案のとおり認定しました。

元年度の一般会計の決算規模は、歳入総額は前年度比29・0%増の2009億6404万円余り、歳出総額は起債の借り換えなどで、前年度比30・2%増の1998億358万円余りとなりました。決算収支は、市税などが当初の想定ほど伸びず厳しい財政収支となり、決算対策として財政調整基金3億円、減債基金7億5千万円を取り崩したことで、収支の均衡を保つことができました。

決算状況の分析・評価について

今後さらに厳しい状況が続くことから、決算状況の分析・評価、財政運営等について質疑が行われました。

問 大型事業の完了で、当面公債費は減少するが、依然、硬直した財政構造となっている。元年度の決算状況をどのように分析しているのか。

答 基金取り崩しで収支均衡を

図る手法も限界に近づいており、今後、高齢化の進展に伴う扶助費の増加や会計年度任用職員制度導入等による人件費の増加に新型コロナウイルスの影響が加わることから、収支見通しを適宜に行いながら、健全化に向けた一層の取り組みの強化が必要である。

財政の見通しについて

問 今後の一般会計の起債残高と公債費の予想、予算編成上の課題について聞く。

答 一般会計の起債残高は、大型事業の完了により、令和元年度末をピークに減少する。公債費は、繰上債の借り換え効果などで一定期間減少の見込みであるが、公債費シミュレーションを行い、慎重な財政運営に努める。

また、予算編成に向けた課題として、SDGsの考え方を踏まえ、高知市型共生社会の実現や新型コロナウイルス対策経費を着実に反映させるとともに、歳入を的確に見込んだ上で、身の丈に合った歳出予算とし、収支の均衡を図る必要がある。

予算決算常任委員会（分科会）における質疑

問 家具転倒防止対策事業について、制度改正による希望者増の

ため実施できなかった件数について聞く。

答 昨年度は、予算額を上回る申請があり、約130件が実施できなかった。今年度はその方々を優先的に案内しており、70件を超過する方が今後実施予定である。

問 中心市街地活性化事業の評価についてどう考えるか。

答 中心市街地の居住人口割合が上昇し、歩行者通行量、拠点施設の入館者数については、オーテピアへの来客効果が大きい。次期計画を策定するに当たり、目標値の再検討や、さらなる取り組みが必要。

問 生活関連道路などの道路整備事業費について、整備の優先順位はどのように決めているか。

答 要望等の中から処理が不要なものを除いた後、必要なものを抽出し、緊急度を確認した上で、可能な限り緊急性が高いものから整備している。

問 妊婦歯科健診事業費について、受診率向上のための取り組みについて聞く。

答 来年度から子育て世代包括支援センターで全ての妊婦と面接することになるため、積極的な受診の勧奨を進めていく。

委員会審査では 一般会計補正予算を否決

9月定例会では、一般会計補正予算の文化プラザかるぽーとの大規模改修費と国民宿舎を運営する指定管理者への支援金の内容についても議論となりました。

かるぽーとは、平成13年の竣工から18年を経過し、建物本体をはじめ、電気設備や舞台照明の大規模改修が必要となっていることから、長寿命化整備事業として40億円の継続費の設定が提案されました。しかし、改修についての十分な説明と議論が必要であるという理由で、継続費を削除する修正案が提出されました。

また、国民宿舎桂浜荘を運営する指定管理者に対する支援金4300万円余りについては、他の事業者への支援と比べ手厚すぎることから、その額を民間に対する趣旨の「高知市宿泊事業支援給付金」の上限である2500万円に減額する内容の修正案が提出されました。

委員会では、それぞれの修正案を賛成少数で否決したのち、一般会計補正予算原案も賛成少数で否決すべきものと決しました。